



2018年6月3日 奥浅草だより 第4号

鳥越神社の例大祭

江戸の刑場 江戸時代の有名な刑場は、日本橋より東なら小塚原、日本橋より西なら鈴ヶ森でした。これは小さな刑場が江戸の都市の発展とともに集約され外辺に移ったからです。徳川家康の方針により、町奉行の下請けの弾左衛門は、本町（日本橋）から鳥越に、それから浅草新町へ居所を移しました。それは、刑場が鳥越に移り、その後、聖天町の浅草処刑場に移り、それから小塚原に移ったからです。小塚原刑場では、1651年から明治初めまでに20万人以上が処刑されたと言われています。

鳥越神社 651年に日本武尊を祀って白鳥神社と称し、1051-63年に源義家が鳥越大明神と改めたそうです。都内で担ぐ神輿としてはもっとも重い千貫神輿が有名です。2018年の例大祭は、6月9日(土)・10日(日)に行われます。約4トンもするこの神輿は、狭い道路も通るため担ぎ棒が短く、担ぐための競争があるなど、喧嘩神輿とも言われる気の荒い行事となっています。最終日の宮入は点灯した神輿が町内を練り歩き、有終の美を飾ります。

きりしたん殉教記念碑 徳川秀忠の時代に、基督教を禁止するという方針になりました。1613年8月に、浅草鳥越刑場で磔や斬首で合計28名のキリシタンが信仰を捨てないため処刑されました。三代目弾左衛門の時代です。この処刑場の跡の1つは現在の台東区立育英小学校で、ちょうど鳥越神社とJR浅草橋駅との間にあります。また、28名の殉教者を偲んで、「浅草鳥越きりしたん殉教記念碑」が、カトリック浅草教会の裏手に建てられています。この教会は1877年に創立。戦後の改築後1992年に台東区の建築景観賞を受賞。また聖堂の歴史的ステンドグラスも有名です。(JR浅草橋駅西口より北へ徒歩8分)

この「奥浅草だより」は、『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の制作でとくにお世話になった方々に不定期にお送りしております。他にご関心のある方にもお送りしますのでお知らせください。 著者=佐野陽子・江原晴郎 編集=森下恒子 info@sanox.co.jp